

「行事で育てる」

幼小連携の取組として、学区にある幼稚園の生活発表会を参観した時のことです。

劇の中で、オオカミ役の子どもがセリフを詰まらせてしまいました。何度か言い直しを試みましたが、とうとう止まってしまいました。沈黙の後、「どうなるのだろう…」と思った瞬間、こぶた役の子どもが、こそこそっとオオカミ役の子どもに耳打ちをしました。オオカミ役の子どもは小さくうなずき、大きく息を吸ってから「それなら、こうしてやろう!…」とセリフと演技をつなぎました。子どもたちみんながそれぞれの役を楽しんでいる姿と、子ども同士によるさり気ないアシストのお陰で、劇は大成功でした。

数日後、園長先生と話をする機会があり、こんな話を聞かせていただきました。「上手に歌えることやセリフをすらすら言えることより、子どもが友達と力を合わせて発表している姿を大切にしました。発表会は日常の遊びや生活の延長なので、当日の出来映えと同じくらい、毎日の練習が大切です。練習で、どうしてもカスネットのリズムが合わない子どもがいたのですが、友達がそばでずっと教えていました。リズムよく打てるようになるまで、何度も何度も付き合っていました。このような、日々の生活で大切にしていることが発表でも生きているのだと思います。」

子どもたちは一人一人得意なことも苦手なことも違います。声の大きさも違います。人前に出ることが苦手な子どももいます。それでも、みんな大切な友達です。子どもたちは日々の遊びの中で、担任のかかわりを通じて、助け合いや支え合いの気持ちが育っていたのだと感じました。

行事は練習や準備に時間や労力がかかり大変ですが、ねらいをきちんと持って行えば、日常では得られない大きな学びがあるのだと思いました。